

札幌北高定時制だより

令和7年度 第8号 2026.3.27

令和7年度 修了式

3月24日（火）、令和7年度を締めくくる修了式が行われました。

1ヶ年**皆勤賞の6名**が呼名され、代表生徒が表彰を受けました。また、惜しくも皆勤に届かなかった1ヶ年**精勤賞は19名**。こちらは各HRで表彰されました。

佐賀校長先生の講話では、様々な背景・状況の中で1年間をやり切った生徒の皆さんへねぎらいと賞賛の言葉が送られ、「学びたい、変わりたい、前に進みたい」という思いを持って一歩踏み出した証であること、上手く行かないときも成長につながることを伝えられました。そして、歩みのスピードは人それぞれで良いこと、自分の歩みを大切にすることをお話いただきました。最後に、様々な事情で学校を離れていく生徒がいることに触れられ、可能な限り北定で学び続けてさらに可能性を広げて成長して欲しいと言う次年度への期待と願いが伝えられました。

令和7年度 離任式 お世話になった先生方とのお別れ

別れの3月です。今年は、2名の先生方が北定から転出されることになりました。

【転出される先生】

- 佐賀 聡 校長先生 役職定年により校長を退かれて北海道立教育研究所へ異動
- 滝川 智子 養護教諭 江別高校（全日制）へ異動

離任式では、転出される佐賀校長先生、滝川先生からご挨拶いただき、生徒会から感謝の意を込めて、花束を贈らせていただきました。退場時には、生徒が花道を作り、お二人を送り出しました。



佐賀校長先生、滝川先生、お世話になりました。ありがとうございます。北定の頑張りが、先生方に届くように新年度からも頑張ります。

令和7年度 一年を振り返って

今年度を振り返ると、北定生徒の皆さんがそれぞれの背景や事情の中で学校生活に真摯に取り組んで、立派にやり遂げてきたと言う事がよく分かります。放課後に自習している生徒、先生をお願いして補習をしてもらう生徒、資格検定に向けて熱心に対策する生徒、受験に備えて積極的に学習に向かう生徒など学習に対する非常に積極的な姿勢が見られました。

また、熱心に練習に励んできたバスケットボール部、バドミントン部の選手たちが大会に出場し、北高のユニフォームを身にまとい、最後まで諦めずに戦う姿に大きな感動を覚えました。イラスト部の生徒の作品は行事で展示されたり、各しおりや『萌』などにも起用されて様々な場面で彩りを加えてくれました。「生活体験発表大会」では、代表生徒の佐伯君の石狩地区優勝、全校応援で北定生の見守る姿の誠実さと素晴らしさは心から誇りに感じています。

令和7年度は、行事の充実に踏み込んだ年でもありました。秋の学校祭「北定フェス」においては、文化的な側面としてステージ発表を導入し、多くの生徒が全校生徒の前で個性を発揮してくれました。冬の球技大会では、「ポッチャ」を競技に加えるなど、多様な生徒が在籍する北定ならではの着眼点が見られました。ポッチャを含めた各競技で学年対抗の白熱した試合が繰り広げられ、特に1年生は熱心な応援でクラスの一体感を示してくれました。生徒会の皆さんの創意工夫や、新しいことにも恐れず挑戦する姿勢が大きく学校を変えてくれました。

進路活動では、各学年で講話や体験的な学習が実施され、卒業後の行き先だけでなく、自らの意志で社会のなかでどの様な役割を果たすのか、自分らしい生き方とは何かを考える機会になりました。

最後になりましたが、本校の教育活動を支えてくださった保護者の皆様に厚く御礼申し上げます。北定フェスでは58名、球技大会では21名、公開授業（授業参観）では12名、昨年度よりも多くの保護者の皆様に御来校いただきました。学校に足をお運びいただき、生徒の様子を参観いただきありがとうございます。次年度も引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

